リレーエッセイ

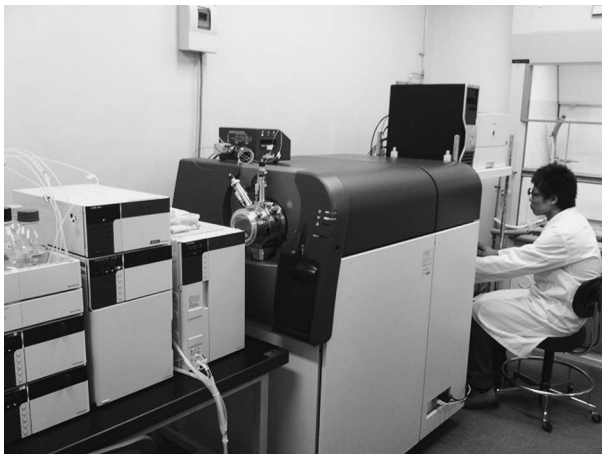
# 私の恩返し

AB Sciex の大関さまからバトンを引き継ぎました，名古屋大学の財津と申します。現在，私は大学院医学系研究科に所属していますが，元々は工学部出身で，卒業後は科捜研で働いておりました。我ながら不思議な道を歩んできたなと思いますが，この道を振り返ると，数多くの恩師・恩人と巡り合った幸せを感じます。これを機に，歩んできた道を振り返りながら，その時々に感じた想いを書かせて頂きます。

私は同志社大学工学部で化学工学を専攻し，微粒子のご研究をされている森　康維教授の研究室に配属されました。きっかけは，私が３年生の時，学生実験の質問のため，１人で先生を訪ねたことです。ご多忙の中，先生は私を教授室に通して下さり，長時間，熱心にご説明下さいました。このことに私は心底感激し，森先生の研究室に進もう！　と決心したのですが，今振り返ると，その時から先生とのご縁を頂戴したのだと思います。私は元来，研究に対する興味は強く，そのような気持ちを先生は敏感に察知して下さったのか，お時間があれば，粒子径分布測定装置やζ電位計の原理，微粒子研究の最前線のことを話して下さいました。森先生の和やかな笑顔と研究に対する真摯な姿勢は，いつも私の心の中に息づいています。その後，私は試みに受けた科捜研の採用試験で予想外に合格したため，大学院を中退し，大阪府警・科学捜査研究所に勤務することになったのですが，数年後，森先生ならびに同志社大学の加納航治教授，塚越一彦教授に御指導を賜り，科捜研で進めた研究をまとめることで学位を頂きました。学位審査では，先生方から心のこもった御指導を頂戴し，赤ペンで真っ赤になるほど添削して頂いた「学位論文の原稿」は，今でも大切に保管しています。

さて，いざ科捜研に入所したものの，私にとってはNMR, GC−MS, LC−MS/MS … といった分析機器は，どれをとっても全てが「未知との遭遇」であり，内心，“これはエラい（関西弁で「大変な」の意）所にきてしまったなぁ”と，ひどく戸惑ったのを覚えています。特に，分析機器の使い方を覚えるのには苦労しました。しかし，大阪府警科捜研には，土橋　均博士（現大阪医科大学准教授）を筆頭に，辰野道昭博士，三木昭宏博士，片木宗弘博士，西川眞弓博士といった薬毒物分析のプロフェッショナルがおられ，時に厳しくも，力の入った指導を頂くことで，徐々に薬毒物分析の面白さを感じるようになりました。特に，土橋先生からは公私に渡ってご指導を頂き，分析化学者としての心構えから，研究に対する考え方，さらには，ひと肌程度の「ぬる燗」の美味しさまで，本当に数多くのことを教えて頂いています。私は元々お酒を飲まなかったのですが，土橋先生との出会いのおかげで，人生の“妙味”に触れることができ，心より感謝しております。

科捜研での勤務の中で，最も印象深いことは，平成19～20 年に発生した，冷凍餃子の薬物中毒事件です。詳細は省きますが，この時は短時間で精度の高い定量分析法を構築する必要があり，緊急時の検査体制に切り替え，強いリーダーシップの元，薬毒物分析のスタッフが有機的に繋がることで，素晴らしいチームワークが発揮されました。その結果，定量分析に必要な薬物標準品の合成から前処理法の検討，フルバリデーションまでを１日で完了し，翌日からは大量に運ばれてきた試料の分析を次々とこなすことができたのは，感慨深い経験でした。



**LC−Q−TOF−MS** を用いて実験を行う学生さんの様子

また，科捜研で多くの経験を積むにつれ，分析化学における私の興味や視点も徐々に変わっていきました。土橋先生の紹介で，大阪大学の福﨑英一郎教授の元に半年間，メタボロミクスを学びに行かせて頂いた際には，分析化学の新たな領域を肌で感じると同時に，医学・生化学的な活用面にも興味を覚えるようになりました。

そのような折，当講座の石井　晃教授から，幸いにも名古屋大学へのお誘いを頂戴し，現職に至ったという次第です。石井先生は GC−MS, LC−MS/MS, LC−Q−TOF−MS といった質量分析計を用いた薬毒物分析を主たる研究テーマとされる一方，動物実験を組み合わせた基礎医学的なテーマにもチャレンジされています。いつも石井先生とは，面白い研究をやっていきたいですね！と，医局でお菓子をかじりながら話しております。（なお，質量分析計を用いた薬毒物分析や基礎医学的な研究にご興味のある方を，当講座ではいつでも歓迎しております！）

このように数多くの恩師・恩人との出会いがあって，今の私がある訳なのですが，私が敬愛する方からは，「あなたが恩師から頂戴した“恩”は，あなたの後輩達に返していきなさい」と言われています。大学という環境にいる今，教育といった形で，少しでも後輩達に恩返しをしたいと思います。そして，今の私を形成してくれた「分析化学」という学問も，いわば私の「恩師」であり，今後の分析化学の発展に少しでも「恩返し」をしていければと思います。

さて，次のリレーエッセイは，脱法ドラッグ分析の戦友であり，阪神ファンとしての盟友でもある東京都健康安全研究センターの鈴木　仁先生にご執筆をお願いしましたところ，ご快諾頂きました。この場を借りて御礼申し上げますとともに，鈴木先生のご健筆に期待して，筆を置かせて頂きます。

〔名古屋大学大学院医学系研究科　財津　桂〕